



● 筑波技術大生に期待できること

言うまでもなく、筑波技術大学の評価は「どのような学生を育てたか」で決まります。入学式の学長式辞で新入生に期待する私の想いを述べたので、その一部を供覧いたします。

1. 同じ障害者同士の理解を

平成 20 年度は、筑波技術大学の聴覚障害学生が学ぶ産業技術学部には 51 名、視覚障害学生が学ぶ保健科学部に 39 名の新入生を迎えました。3 期生である 90 名が入学したことにより、4 年制の本学には、1 学年から 3 学年までの学生が揃ったことになります。どうか独りぼっちにならず、より多くの人間と関わりを持ってください。狭い観点ではなく、より広い観点に立つことを心がけてください。より多くの人々と関わることに、私の考えをいくつかお話ししたいと思います。

障害について理解のない人々は、私たちを聴覚障害者、視覚障害者と言って一括りにとらえる傾向があります。また、筑波技術大学が、聴覚や視覚に障害のある学生だけの集団であることから、そのような誤ったイメージを持たれがちです。同じような障害を持っていながら、私たち一人一人が個性輝くかけがえのない人間であることを、まず、私たち自身が理解し合い確認する必要があります。

2. 視覚障害者と聴覚障害者との理解を

これから皆さんは、産業技術学部のある天久保キャンパスと、保健科学部のある春日キャンパスとに分かれて生活することになりますが、ぜひ相互の学生交流も進めてください。視覚障害者と聴覚障害者とのコミュニケーションが最も困難なことであることを、自ら体験してください。そして、自分と異なった障害を持つ友人を沢山つくってください。

皆さんは「見ること」あるいは「聞くこと」の情報バリアを、これまで何度も克服してきたに違いありません。今度は、視覚障害者と聴覚障害者の間にあるコミュニケーションのバリアを取り除くことにも挑戦してみてください。

い。そうすることにより、自分だけの障害にとらわれなくて、本物の「障害補償」とは何か、本物の「情報保障」とは何かが分かってくるはずですよ。

短期大学当時、視覚障害関係学科の目の不自由な学生が手話を覚え、聴覚障害関係学科の耳の不自由な学生とコミュニケーションしようと努力し、春日キャンパスの中に手話サークルを創った先輩がいました。また、「バリアフリーコミュニケーション・視覚障害者と聴覚障害者とのコミュニケーション」という本を、視覚障害者と一緒に出版した先輩がいました。昨年からは、視覚障害者と聴覚障害者と教職員や市民とが、囲碁を通して「手談」に興じる「囲碁サロン」が活動を開始しています。

3. 学外の学生・市民との理解を

障害者だけのために創られた大学だからといって、大学の環境の中だけで苦勞なく安住しないでください。自らを世の中から分離・隔離してしまうような学生生活を送らないように心がけてください。私たちの大学と連携協力している大学も国内各地に年々増えています。札幌学院大学、宮城教育大学、群馬大学、静岡福祉大学、愛知教育大学、日本福祉大学、同志社大学、立命館大学、関西学院大学、広島大学、愛媛大学、福岡教育大学などです。これらの大学と情報交換をしてください。また、筑波大学や筑波学院大学など、地域の大学生とも進んで交流してください。更に、地域社会の動きや行事等の情報を収集し、つくば市民としての生活を送ってください。つくば市は、誰もが気持ちよく暮らせる「ユニバーサルデザイン」の町づくりを目指しています。それには、自ら障害を持って暮らす皆さんの経験から生まれた意見やアイデアがとても重要となります。

4. 国際的な視野に立った理解を

今や、日本の中だけの障害者の高等教育がうまくいけば良いという時代ではありません。世界的な規模で筑波技術大学の役割を考える必要があります。私たちの大学には姉

妹締結した大学が世界に10校あります。韓国、中国、フィリピン、タイ、アメリカ、ロシアなどに設立された障害者のための大学等との交流が益々盛んになっています。

特にアジアの聴覚障害者、視覚障害者は、本学の高等教育の経験から学ぶことが多いと、熱い期待を寄せています。留学生と共生する時代が近づきつつあります。皆さんの在学中に、是非一度は、アジアにある姉妹締結大学を訪れ、アジアの人々と共有できる障害観を確認し、国際的な障害理解・啓発の手がかりをつかんでみてください。

5. 教師から直接学ぶ本物の教育を

大学に通う意味は、キャンパスまでバリアフリーにたどり着くことではなく、教室の中で高等教育機関として用意された学ぶべき内容が確かに伝わり合うことが第一です。ただ「障害者にやさしい」大学であるだけでは、本当の教育バリアが取り除かれたとはいえません。耳からの情報入力に制限のある学生が、高度で専門的な教育を受けようとするとときに直面する情報授受・コミュニケーションの障害こそが、通常の大学教育では解決しにくい最大の教育バリアなのです。筑波技術大学では、「なまやさしい」環境整備だけでは済ませない本物の教育を実践しています。

教師は学ぼうとする学生に直接に対面し、自らの言葉により教えたいことを学生に伝え思考を刺激する。それに応える学生が自らの理解の様を教師に伝える。言うまでもなく、これが授業の基本スタイルです。聴覚障害学生のいる教室に手話通訳やノートテイカーが配置できる環境は大事です。しかし、これだけで済ませてはいけません。教師と学生との間で第1次情報が直接交わされるコミュニケーション関係が理想的です。

通訳者が介在して教師の講義を学生に伝え、また学生の質問や意見を通訳者が教師に代わって伝えなければならない状況、これが最良の情報保障環境であるとは、私たちは考えていません。例えば、言葉の通じない外国での留学生活で、いつまでも通訳を介しては真の師弟関係は生まれません。学生は師と仰ぐ先生の使用する言語を修得したいと考え、先生も愛する学生の母国語を理解しようと努めるものです。

6. 真に力のつく学生生活を

入学し卒業するまで、学力が向上しなければ大学に進んだ意味がありません。「真に力のつく」学生生活を送ってください。我が国唯一の障害者のための国立大学は、学生に楽な暮らしをしてもらうために設立されたものではありません。君たちが卒業後に自立し、社会に貢献できる人間に

なってもらうためにあるのです。君たちにはその能力があるのだということを日本の社会が判断し、入学を許可したのです。

他の大学の学生とは比べようもないほど多額な国家予算を君たち一人ひとりにかけてみようとする国民が判断したのです。ちなみに、学生一人当りに使われる公費（運営費交付金額）を比べてみると明らかです。東京大学の学生一人当りの額が約320万円です。筑波大学が約270万円、茨城大学が約90万円です。それに比べ、本学の学生一人当りの経費は約900万円です。筑波大学の3倍以上、茨城大学の約10倍で、700以上ある日本の大学の中で群を抜いてトップです。

我が国唯一の聴覚障害者、視覚障害者のためのこの国立大学に入学したからには、必死に頑張っただけで勉強をして欲しいのです。実は、せっかく入学したにもかかわらず、勉強意欲を失い、留年や退学する学生が少なくありませんでした。これでは、一般の大学で学ぶ多くの障害学生に対しても、また、言葉や情報のバリアのないこの大学で思う存分に勉強してもらいたいと期待した多くの国民に対しても、残念で申し訳ないことです。これからの君たちの4年間は、思う存分学ぶためにあるのです。このことを忘れないでください。

7. 筑波技大生一人ひとりの生き方が勇気と希望のモデル

一人ひとりの教職員と学生自身が努力し教育成果をあげること、そうすることで世の中の人々が見過している価値と希望を改めて世界中に与えることができる。そのような大学で私たちは仕事し学んでいることを誇りに思いません。

今日も、日本のどこかの病院で、聴覚や視覚に障害があることを宣告され、死んでしまいたくなるほどの絶望感に打ちひしがれている子ども達と親御さんがいるにちがいません。その方々に頑張ってみようと、将来の希望や勇気を示してあげることができるのは、君たち一人ひとりのこれからの生き方なのだということを忘れないでください。

耳の障害、目の障害に負けずに、ここまで成長した皆さん、それを支え、頑張ったご家族の皆様を、敬意と愛情を持ってお迎えます。

(「聴覚障害」2008年5月号(第63巻) 特集-筑波技術大学を考える-)より許可を得て転載)

筑波技術大学長 大沼直紀

● 第1回「卒業生と集う会」を開催



講演会後の集合写真

平成20年2月9日(土)、春日キャンパス大学会館講堂において「卒業生と集う会」が開催されました。当日は冷たい風が吹き、あいにくの雪模様にもかかわらず、24名の卒業生を始めとして在校生・教職員等70名を超える参加者が集まりました。「卒業生と集う会」は2部構成になっており、第1部は講堂で講演会、そして第2部は食堂での懇親会です。今回の企画のコンセプトのひとつとして「在校生が卒業生をもてなす」という考えが入っています。講堂は参加者でいっぱいになり、椅子も足りなくなる様な状況でした。

● 第1部



講演会の様子

第1部の講演会は一幡保健科学部長の挨拶で始まり、「筑波技術短期大学から筑波技術大学への移り変わりと現状と課題」について話して頂きました。また、現在の大学の状況を収録したDVDの上映をし、筑波技術大学の様子と在校生の紹介、そして大学で生活していくための在校生の意気込みについて紹介しています。DVD上映後、鍼灸学科卒 足達 謙さん(筑波大学附属視覚特別支援学校教諭、H16年卒)、理学療法学科卒 野中 政幸さん(東八幡平病院リハビリテーション科科长、H6年卒)、情報条理学科卒 吉田 有希さん(日立情報システムズ、H18年卒)がそれぞれの学科を代表して近況報告が行われました。その内容は短

大時代を懐かしむ話(寮の話、仲間との思い出、勉強の話)、仕事の話など様々な視点から話して頂き、在校生にとって有意義で参考になる話が多かったようです。



YAPPE隊「音楽隊」



YAPPE隊「踊り子隊」

● 第2部

第2部は会場を食堂に移しての懇親会が開かれました。懇親会では、先ほど述べましたが「在校生が卒業生をもてなす」という考えによる企画でした。食堂の中は卒業生と在校生・教職員等でいっぱいになり、誰がどこにいるのかわからなくなるほどでした。学生・職員有志の「YAPPE隊」による歌やよさこい踊りなどが披露され、和気藹々とした雰囲気のなか参加者全員が楽しい時間を過ごしました。卒業生の中には「大学も変わったね。私たちが入っていた頃は在校生が卒業生をもてなして、歌ったり踊ったりできなかった。考えもしなかった。」「昔はこんなに施設が充実していなかった。今の学生がうらやましい。」など様々な印象を持ったようです。

保健科学部 理学療法学専攻 石塚 和重

● ブラインドサッカー部の近況報告

本学のブラインドサッカー部の最近の活動のいくつかを紹介いたします。

●ブラインドサッカーとは

ブラインドサッカーには、2つのカテゴリーがあります。B1クラスでは、障害の程度に拘わらずアイマスクを装着してサッカーをします。4人のフィールドプレーヤーは、ボールの中に入った鈴の音と、ゴールキーパー、監督、コーラーからの指示の声を基にプレーします。また、B2/3クラスでは弱視者が晴眼者とほぼ同一のルールでフットサルを行います。

パラリンピックでは、2004年のアテネから正式種目として採用されています。残念ながら日本代表チームは北京パラリンピックの出場は逃してしまいました。

●本学のブラインドサッカー部

本学には、B1クラスにF.C.Avanzare(以下Ava)とF.C.Vivanzare(以下Viva)が、B2/3クラスにF.C.Sfidaがあります。どのチームも本学在校生と卒業生が混在していて、在校生にとっては先輩に様々なことを教わるいい機会となっています。上記3チームに所属していない本学OBも、それぞれの勤務地に近い日本各地のチームで活躍しています。

また、日本代表チームにはこれまで多数の本学在校生や卒業生が選出されています。今年度は本学春日キャンパスで代表合宿が2度開催されることもあり、日本代表チームに本学関係者が選ばれる可能性も高いです。

●日本視覚障害者サッカー選手権大会

2008年1月12日(土)から13日(日)にかけて、第6回日本視覚障害者サッカー選手権大会が味の素スタジアムセカンドフィールド「アミノバイタルフィールド」にて開催されました。当日はあいにくの悪天候と今年度一番の冷え込みの中、熱い戦いが繰り広げられました。結果は、Sfidaが2年連続の優勝、Avaが3位、Vivaが8位となり、個人でもB2/3クラスでMVPと得点王を獲得するなど大活躍でした。



日本選手権での試合風景

●ブラインドサッカー交流合宿

2008年3月22日(土)から23日(日)にかけて、本学春日キャンパスでブラインドサッカー交流合宿が、絶好の



交流合宿での集合写真

サッカー日和の下で行われました。ブラインドサッカー選手やそのサポーターだけではなく、ブラインドサッカー初体験の方々も含めて、北は新潟から南は大分まで日本各地から30名以上が集まりました。中には児童に教えたいという小学校の先生や、親子連れでの参加もありました。

合宿に参加した本学の学生は、合宿の目的である「他チームの選手やサポーターと交流し、技術の向上と共にブラインドサッカーを通して人の輪を広げる。」を達成できたようです。

●東日本選手権チャレンジカップ2008

東日本のブラインドサッカーチームが参加する東日本選手権チャレンジカップ2008が4月に開幕しました。宮城、山梨、茨城、千葉、東京、埼玉からB1クラス8チームが参加し2回戦の総当たり、B2/3クラス3チームが参加し3回戦の総当たりを行います。

5月10日(土)に、B1クラスの第2節が、本学春日キャンパスにて開催されました。開幕戦を快勝で飾ったAvaとVivaの2チームにとっては、負けられないホームグラウンドでの試合です。第1試合はVivaが日本選手権を連覇した強豪と対戦しました。その強豪のエースである本学OBによるシュートの雨を鉄壁のディフェンスとGKの好守でしのぎ、激戦の末4-2で制するという快挙を挙げました。第2試合はAvaが相手チームにいる本学卒業生の見事なドリブルに振り切られ、0-1の惜敗でした。第3試合はダブルヘッダーとなるVivaが本学在校生による開始早々のゴールの後も着実に加点し、4-0で見事開幕3連勝を飾りました。



AvaとVivaの集合写真

5月18日(日)に、B2/3クラスの開幕戦が、所沢の国立身体障害者リハビリテーションセンターにて開催されました。日本選手権を連覇しているSfidaは、その実績に違わぬ危ない試合運びで、2試合とも6-0の完封で勝利を飾りました。



sfidaの集合写真

ブラインドサッカー部は毎週水曜日19時に春日キャンパス体育館で、土曜日11時半に同グラウンドで練習を行なっていますので、是非とも見学または応援に来てください。

保健科学部 情報システム学科 福永 克己

● 「免許状更新講習プログラム開発委託事業」に採択

本学は文部科学省の「免許状更新講習プログラム開発委託事業」に採択され、20年度に免許状更新の「予備講習」を行うことになりました。これは来年度から施行される「教員免許状更新制」のための「更新講習」の試行事業を先行して実施することによって、事業や制度の問題点や課題を検討するためのものです。

免許状更新制度とは、平成18年7月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」等を踏まえ、平成19年6月第166回通常国会において改正「教育基本法」等とともに「教育職員免許法及び教育公務員特例法の一部を改正する法律案」として可決・成立し、平成21年4月より実施されることとなっているものです。これにより今後全ての教員免許状には有効期限が設けられることになり、教員制度における戦後最大の改革ともいえるものです。

本学は教員養成課程を有しない大学ではありますが、特別支援教育には特別な社会的期待と使命を負っている大学であることに鑑み、この度の試行事業に応募しました。聴覚特別支援学校の教員を主対象とした「聴覚特別支援学校および難聴学級における学習支援」と題した本学の申請は全国101の事業委託のひとつに採択されました。本学で予定している講習は「教科指導・教科の専門領域の最新情報・生徒指導・特別支援等」12時間分の講習(定員30名)です。内容は本学の特色を活かした聴覚障害教育事情、最新の情報保障技術等についての講義と演習を予定しています。5月中の募集要項の配付、6月受講生募集、8月2・3日の講習実施に向けて現在、免許状更新予備事業WGを中心に鋭意準備中です。

この講習制度は現職の教員が10年ごとに2年間の期間内に大学等で30時間の講習を受けるというものです。講習は12時間の「最新の教育事情」と18時間の「教科指導・教科の専門領域の最新情報・生徒指導・特別支援等」の計30時間が義務づけられています。

本講習は、聴覚障害児の特別支援教育に携わっている先生方を対象に、更新制度の施行に先だって予備講習を文部科学省の委託事業として行うものです。わが国及び諸外国における聴覚障害教育の動向と課題、教科指導法、聴覚活用、教材作成のための機器の活用、社会自立の指導、通常の学校で学ぶ聴覚障害児童生徒への支援、最新のICTを活用した情報保障等をテーマとする講義及び演習を行います。先生方の聴覚障害教育に対する理解を深め、専門性の向上を図っていただくことを目的としています。講習には評価のためのテストが課されます。なお、本学は聴覚障害者及び視覚障害者のみを入学対象とする唯一の国立大学であり、障害がある受講者に対しても十分な情報保障を行うためのノウハウと実績を持っています。講師は教科に対する専門知識の他に手話や情報保障技術を習得しています。講習実施に当たっては受講する先生方のための情報保障にも配慮いたします。

後に講習の概要を記しましたので、併せてご覧下さい。

障害者高等教育研究支援センター 加藤 宏

講習の概要

- 講習会場 筑波技術大学 天久保キャンパス
(茨城県つくば市)
- 申込期間 平成20年6月10日(火)～6月25日(水)
- 申込先 〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15
筑波技術大学 総務課内
教員免許状更新講習担当宛 029(858)9421
- 開設日 平成20年8月2日(土)・3日(日)
- 定員 30名(定員を大幅に超えた場合は免除措置対象者(注)を優先します)
- 講習料 無料
- 主な受講対象者 聴覚特別支援学校・通級指導教室・難聴学級
教員及び将来聴覚障害児教育に携わる予定のある先生方(全教科対象)

(注)平成23年3月31日に修了確認期限をむかえる現職教員は本講習を修了することにより免許状更新制度導入後の講習の一部が免除されます。



実施案内ポスター

※詳しい講習内容・受講の手続き・申し込み方法については、募集要項をご参照下さい。

● 予定されている講習内容と講師

(講師は全員本学教員です。)

- ・「特別支援教育における聴覚障害教育の課題と専門性の保障」 大沼 直紀
- ・「聴覚と音声のかかわり」 須藤 正彦
- ・「青年期における言語コミュニケーション」 石原 保志
- ・「デフコミュニティの歴史と現在」 大杉 豊
- ・「国語教育の今日的課題と聴覚障害者教育」 細谷 美代子
- ・「聴覚障害児教育における教科指導法」 長南 浩人

- ・「聴覚障害者の外国語学習」 松藤 みどり
- ・「パソコンと一般的な機器を用いた字幕挿入」 小林 正幸
- ・「音声認識ソフトウェアとリアルタイム字幕の体験」 三好 茂樹
- ・「教育機関における情報保障の技術と体験」 白澤 麻弓
- ・「算数・数学学習の指導法と聴覚障害」 新井 達也
- ・「聴覚障害幼児の運動能力と家庭環境、遊びの傾向との関連」 及川 力
- ・「聴覚障害学生の健康と身体活動」 中村 有紀
- ・「通常の小中学校に在籍する聴覚障害児の理解と支援」 佐藤 正幸

● 平成20年度 大学説明会等の予定

● 産業技術学部

□平成20年6月15日(日) 10:00～16:00

会場：日本薬学会長井記念館

東京都渋谷区渋谷 2-12-15

□平成20年7月6日(日) 10:00～16:00

会場：新梅田研修センター

大阪市福島区福島 6-22-20

□平成20年8月8日(金) 10:00～16:00

会場：筑波技術大学 天久保キャンパス

茨城県つくば市天久保 4-3-15

申し込みと問い合わせ

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 聴覚障害系支援課 教務係

Tel 029-858-9334 または 9329 Fax 029-858-9335

E-mail opencampus@ad.tsukuba-tech.ac.jp

● 保健科学部

□ 進学ガイダンス

□平成20年6月9日(月) 15:30～18:30

会場：岡山コンベンションセンター

岡山市駅元町 14-1

□平成20年6月17日(火) 14:00～18:00

会場：宮崎観光ホテル

宮崎市松山 1-1-1

□平成20年6月27日(金) 15:30～18:30

会場：アエル

仙台市青葉区中央 1-3-1

□ 大学説明会

□平成20年6月22日(日) 13:00～16:00

会場：アスティ 45 ビル

札幌市中央区北 4 条西 5 丁目

□平成20年7月5日(土) 13:00～16:00

会場：福岡ガーデンパレス

福岡市中央区天神 4-8-15

□平成20年7月6日(日) 13:00～16:00

会場：新梅田研修センター

大阪市福島区福島 6-22-20

□ オープンキャンパス

□平成20年7月26日(土) 10:00～16:30

□平成20年8月8日(金) 10:00～16:30

□平成20年8月21日(木) 10:00～16:30

会場：筑波技術大学 春日キャンパス

茨城県つくば市春日 4-12-7

申し込みと問い合わせ

〒305-8521 茨城県つくば市春日 4-12-7

筑波技術大学 視覚障害系支援課 教務係

Tel 029-858-9507～9509 Fax 029-858-9517